

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2010年10月上旬から11月中旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊量は徐々に増加し、10月上旬は中位水準となる。10月中旬から減少を始め、10月下旬は低位水準となり、11月上旬には断続的となる。
- (2) 漁場: 10月上旬は、落石沖～釧路沖が漁場となり、襟裳岬沖にも断続的に漁場が形成される。10月下旬は、落石沖の漁場は消滅し、厚岸～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、襟裳岬沖に漁場が残るが終漁となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は断続的ではあるが来遊がある。10月下旬まで低位水準であるが、来遊量はゆるやかに増加し、11月上旬には中位水準となる。11月中旬は、中位水準であるが減少する。
- (2) 漁場: 10月上旬は、断続的に漁場が形成される可能性がある。10月上旬～中旬は三陸北部に漁場が形成され、10月下旬に漁場が南部まで広がる。11月中旬に北部の漁場が消滅し、漁場は南部のみとなる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月下旬は断続的ではあるが来遊がある。11月上旬は低位水準であるが、来遊量は徐々に増加し、11月中旬は中位水準となる。
- (2) 漁場: 10月下旬～11月上旬は、常磐北部において漁場が形成される。11月中旬に漁場が南部まで広がる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	低位増加	中位増加	中位減少
	漁 場	北部	北部	北部～南部	北部～南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向			断続的	低位増加	中位増加
	漁 場			北部	北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(9月中旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月上旬に引き続き、前年をかなり下回り、低位水準であった。過去20年間で最も来遊量が少なかった。

(2) 漁場

道東海域よりも沖の花咲港東北東～東南東沖が主漁場であり、道東海域では漁場は形成されなかった。

(3) 魚体

花咲港東北東～東南東沖における漁獲物は、30～31cm モードの大型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.5～2割程度。体重150g台が主体。

4. 今年の常磐海域における来遊予測について

2010年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所(北海道教育庁北鳳丸(用船)及び北海道区水産研究所所属北光丸)が中層トロールを用いて行った漁獲調査では、サンマの分布量は例年と異なり、東経163°以西で少なく、東経167°以東が多かったのが特徴であった。一方、本調査結果から推定した推定資源量は、今年の約63%程度と少ない。これらのことから、今後も昨年と比べて来遊資源量は少ないと判断した。

9月中旬までの来遊量水準は、低位水準であり、過去20年間で最も来遊量が少ない状況が続き、水揚量も少なかった。また9月上旬～中旬は、昨年よりも水温が高い状態が続いたため、サンマの南下は遅く、花咲港東北東～東南東沖が主漁場であり、道東海域には漁場が形成されなかった。一方、9月下旬に入り群がややまとまるようになり、落石沖にも漁場が形成され、水揚量は多くなったことから、沖合にいたサンマの群が漁場に来遊するようになってきたと考える。

本中短期予報結果では、三陸海域における来遊量は昨年よりも少なく、10月中旬において低位増加である。また三陸南部は10月下旬になって漁場が形成される。

独立行政法人水産総合研究センターと独立行政法人海洋研究開発機構の共同研究により開発されたFRA-JCOPEシステムで計算された10月10日における海況予測結果(詳しくは、<http://fj.dc.affrc.go.jp/fra-jcope/index.html>を参照)によると、常磐海域南部の一部で黒潮の影響を受けるものの、三陸南部から常磐海域北部にかけて冷水域が存在し、三陸海域には南下を妨げるような暖水塊は存在しないことから、常磐海域へサンマが南下しやすい海況となっている(図1)。

道東海域における漁況の経過から、魚群の南下は遅い。また三陸海域への来遊予測では、10月下旬になって三陸南部において漁場が形成される。一方海況予測結果では、常磐海域へサンマが南下しやすい海況である。常磐海域の過去10年の平均初漁場形成日は10月中旬であり、昨年は10月19日頃であった。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、平年よりも遅く10月下旬になる。

9月中旬における水揚物の体長組成を見ると、体長30～31cmモードの大型魚主体であった(図2)。東北区水産研究所が2010年6月～7月に行った漁期前調査結果から、今後も中小型魚が混じるものの、大型魚主体で推移すると判断した。

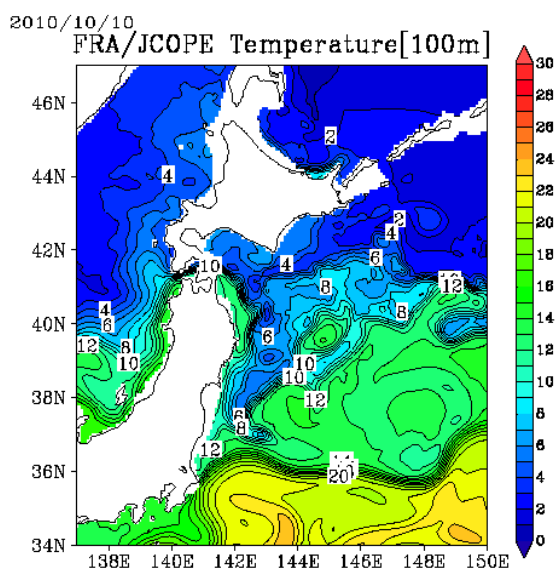


図1. 2010年10月10日の予測水温分布(100m深)

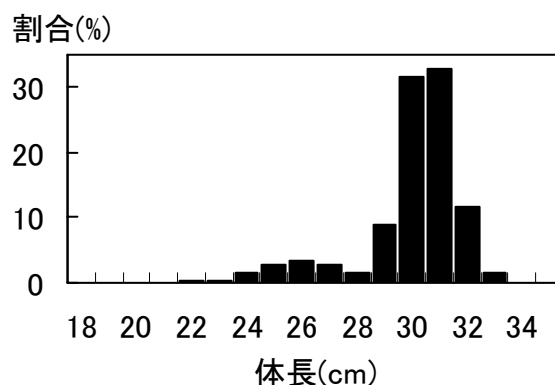


図2. 2010年9月中旬のサンマ体長組成